

# 愛知県感染症情報

## 平成 12 年第 18 週（5 月第 1 週）

（コメント）

連休の影響もあり報告数は全体的に減少していますが、ヘルパンギーナと流行性耳下腺炎の散発が見られます。

水痘は、例年 5 月中旬頃にピークをむかえています（第 17 週にグラフ掲載）ので注意してください。

（先生方からのコメント）

\* 今週よりコメントの記載を地区別にしました。

### ● 尾張西部地区

- ・ マイコプラズマ肺炎が多発しています。（成人 5 名、小児 8 名）

感染性胃腸炎 49 名中には、病原性大腸菌 0-1 43 才女、0-1 10 才女、0-153 16 才女）、アデノウイルス抗原陽性者（2 才女、3 才男 2 名、4 才男）、ロタウイルス抗原陽性者（3 ヶ月女、2 才女）

（尾西市 城後小児科）

- ・ まだ CRP\*（C 反応性蛋白）陽性の 7～8 日発熱続く例が続発中

（岩倉市 なかよしこどもクリニック）

### ● 尾張北部地区

- ・ マイコプラズマ感染症は多く、アレルギー性紫斑病の合併例（12 才）ありました。流行性耳下腺炎が増え、水痘との同時感染 2 例（3 才男女）ありました。

（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ 水痘流行持続。溶血性レンサ球菌咽頭炎、流行性耳下腺炎増加傾向です。

（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）

- ・ 今週は水痘の流行も減少しました。

（春日井市 かがわ北病院）

### ● 西三河地区

- ・ カンピロバクター（c.jejuni）陽性 17 才女、

（豊田市 やふそ小児科）

- ・ 麻疹 11 ヶ月女 4/29 より熱発 5/3 発疹出現。兄の受診についてきて 4/20 頃当院で感染か？

（岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院）

- ・ 病原性大腸菌 VT1、VT2(-) 5才男  
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ 高熱持続する上気道炎多かったです。(アデノウイルス?)  
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ 病原性大腸菌 0-1 VT1(-) 2才男  
カンピロバクター + 病原性大腸菌 0-1 VT1(-) 2才男  
(幸田町 とみた小児科)
- ・ ムンプスが増えてきました。溶連菌感染症が散発しています。  
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 手足口病の母子感染あり  
(西尾市 山岸クリニック)

\* CRP (C反応性蛋白) について

試験管内で肺炎球菌のC多糖類と沈殿物を形成するグロブリン。血清中への出現は、感染性か非感染性かの鋭敏な指標になる。

(1~3類感染症の発生状況)

細菌性赤痢患者 1名。

師勝保健所から報告の23才男、4/30発病、5/2初診、5/5診定、菌型はゾンネ 相。ネパール渡航歴あり。

腸管出血性大腸菌感染症患者 6名

豊橋市保健所から報告の8才男 4/26発病、4/29初診、5/2診定。菌型は、0-157 VT2(+).

豊橋市保健所から報告の3才女 4/26発病、4/30初診、5/3診定。菌型は、0-157 VT2(+).

豊橋市保健所から報告の61才男 5/4初診、5/7診定。菌型は、0-157 VT2(+).

豊川保健所から報告の31才女 4/27発病、4/27初診、5/7診定。菌型は、0-157 VT2(+).

豊川保健所から報告の6才女 4/26発病、4/27初診、5/7診定。菌型は、0-157 VT2(+).

豊川保健所から報告の3才女 4/26発病、4/27初診、5/7診定。菌型は、0-157 VT2(+).

(全数把握の4類感染症の発生状況)

発生はありません

第 16 週（平成 12 年 4 月 17 日～4 月 23 日）の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎の定点当たり報告数が例年の同時期よりかなり多く、過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。患者の年齢階級別で見ると、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、3 歳から 7 歳の小児が全体の約 7 割を占め、ピークは 4～5 歳にある。感染性胃腸炎は 6 歳以下の小児が全体の 72%を占め、ピークは 1 歳にある。水痘も例年の同時期に比べ、定点当たり報告数が多い。夏期の流行疾患のうち咽頭結膜熱の流行曲線が立ち上がりはじめ、今後流行極期の 7～8 月にかけて患者数が徐々に増加することが予想される。手足口病の報告数は全国的にはまだ少ないが、熊本県で今週定点当たり報告数が 3.7 と多くなっている。麻疹は大阪府、千葉県で大きな流行が見られ、兵庫県、和歌山県、岩手県、岐阜県、栃木県、茨城県などでも患者報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県、茨城県、滋賀県で報告が多く、定点当たり報告数はそれぞれ 3.3、3.2、3.1 となっている。

（Infectious Diseases Weekly Report より抜粋）

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

連休が終わってまた電車が混むようになりました。中間テストの準備でしょうか、仲間でペタンと床に座り込んで単語帳をめくっているのがいたりします。いつも貴重な情報を有難うございます。4月前半～後半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：相変わらずロタウイルス陽性例を含むウイルス性の下痢症が各地区で目立っていますがサルモネラ感染症や病原性大腸菌陽性例も発生しています。発熱、咳、咽頭炎の感冒症候群も散発的ですが各地区に出ています（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院伊藤先生、大同病院水野先生）。ウイルス性の肺炎、気管支炎やRSウイルス陽性例を含む細気管支炎・仮性クル-プも目立っています（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院伊藤先生、大同病院水野先生）。伝染性紅斑や無菌性髄膜炎の発生の報告（今年の流行の先駆けでしょうか）や、EBウイルス感染症の報告もいただいています。注目したいのは市内各地区でいまだ散発的ですが麻疹がワクチン未接種者（特に年長児）を中心に発生、肺炎などの合併症から要入院例が目立っていることです。ワクチン接種率増加の努力を今後もしたいと思います（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、中京病院柴田先生、三菱病院岩間先生、大同病院水野先生）。

2. 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎、水痘と溶連菌感染症が散発中、津島市民病院長田先生からはロタウイルス腸炎と溶連菌感染症、江南市からはロタウイルスの下痢症、原因不明の発熱性発疹症、麻疹の兄弟例、川崎病の入院などの報告をいただいています（昭和病院丸地先生、愛北病院水谷先生）。瀬戸陶生病院山口先生からはロタウイルス陽性例を含むウイルス性胃腸炎と溶連菌感染症が小流行中で、百日咳入院例3例と麻疹入院例2例（共に散発例）、常滑市民病院肥田先生からは感冒性胃腸炎（発熱、嘔吐、腹痛）が流行中、市立半田病院中島先生からは突発疹少々のお手紙でした。

3. 三河地区：豊田地区からはマイコプラズマ感染症を含め肺炎や咳が目立つ気道感染症が多く喘息発作も目立つが胃腸炎は減少（加茂病院大須賀先生、トヨタ病院木戸先生、竹内病院梶田先生）、安城更生病院小川先生からは水痘がやや多く、ロタウイルス感染症が散発中で喘息の入院例あり、知立市近藤先生からは水痘がやや多く咽頭痛と発熱の後咳が続く感冒、刈谷市田和先生からは水痘とムンプスがぼつぼつあり幼児～学童で2～3日の発熱疾患あり、碧南市永井先生からは水痘と溶連菌感染症が散発中、豊橋市からは水痘の散発と突発疹、ロタウイルス腸炎などが目立つとお手紙をいただきました（市内宮澤先生、長屋先生）。有難うございました。（文責 磯村）

2000年3月24日号(75巻12号)

集団発生：エチオピア。髄膜炎菌髄膜炎。アムハラ地区を中心に発生。2月中旬。81例(死亡3例)。ワクチン緊急接種が実施された。マダガスカル。コレラ。99年12月～00年3月に15,173例(死亡860例)の流行。WHOによる政府の厚生省支援が実施されている。

WHOの各地域感染症対策機関のホムペジ番号一覧表。

世界の薬剤耐性結核菌。WHOと国際結核肺疾患対策機関(International Union Against Tuberculosis and Lung Diseases, IUATLD)による全世界調査。新規発見患者と治療の既往をもつ例について調査。94年～99年の状況について調査完了地区と調査中地区(本邦は調査中地区に属している)、計画中ないし未計画地区の世界地図がついている。抗結核剤耐性菌の報告は53カ国から報告されていてウルグアイの1.7%からエストニアの36.9%まで巾がひろい。勧告として(1)長期にわたる継続的な監視が必要である。(2)多剤耐性の発生地区が増加している。状況の正確な把握と二次選択薬剤を含む治療方針決定の世界的なプロジェクトが必要である。(3)治療中断者、外国からの移民労働者に耐性菌保有者が多く、国際的な協力網が必要である。

インフルエンザ。00年3月。アイスランド：A型H3N2とH1N1の流行中。フランス：A型H1N1、ニューカレドニアタイプ。他にベラルーシ、ブラジル、カナダ、クロアチア、チェコ、デンマーク、ユゴスラビア、ドイツ、イタリア、ノルウェイ、ルーマニア、スウェーデン、スイスからインフルエンザの散発例の報告あり。

3月17-23日届出。コレラ：マダガスカル。黄熱：ボリビア、ブラジル、ペルー。  
2000年3月31日号(75巻13号)

コンゴ民主共和国(旧ザイール)のポリオ根絶計画。96年10月開始。内戦のためにポリオ対策開始が遅れ、野生株常在地の一つであることと9カ国と国境を接していることから周辺国も野生株流行地区であることから重要な地区となっている。

(1)ポリオワクチン接種率：地域差が大きい。全国の2歳未満児で59%。30%台の地区も多い。(2)全国一斉接種日(National Immunization Days, NID)：内戦のために実施できなくて地域的なワクチン接種がおこなわれていた。99年8月に最初のNIDが開始されたが内戦のため地区によっては中断されている。首都のキンシャサにおけるポリオ発生地区の戸別訪問による重点的接種は円滑に実施されているが全国に及んでいない。(3)急性弛緩性麻痺サベイランスとウイルス検査：発症数の報告網はあるが弛緩性麻痺の継続調査は実施されていないし、ウイルス検査がおこなわれたのは51%に止まっている。

ブルリ潰瘍(注：マイコバクテリウム感染症。通称熱帯潰瘍。外傷などで感染し皮膚から時に筋層、さらに骨に及ぶ深い潰瘍形成。75巻11号に関連記事あり)：熱帯地区に広く分布していて疾患として重症であることからWHOは実態調査と住民教育の重要性、早期発見と早期治療の重要性を勧告している。

インフルエンザ。00年3月。フィンランドと英国で散発中。A型とB型。

3月24-30日届出。黄熱：ボリビア、ブラジル、ペルー。